

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300190	事業の開始年月日	平成12年3月18日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会			
事業所名	高齢者グループホームあすの里			
所在地	(〒226-0014) 神奈川県横浜市緑区台村町401-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「一人一人の生活作り」を常に考え、職員は、生活作りに必要な事は何かを考えて支援しています。

往診医、訪問看護師、歯科医など多職種とも連携をとりながら、一人一人にあった生活作りを考えています。

季節行事、お誕生日、地域の行事、倶楽部活動など、ご家族や地域の方々にもご参加いただきながら一緒に行うようにしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月15日	評価機関 評価決定日	令和4年4月12日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> <p>事業所は、JR横浜線及び市営地下鉄グリーンライン「中山駅」より、徒歩8分程の閑静な住宅街に立地している。鉄筋コンクリート造り平屋建てで、木材をふんだんに使った屋内は、落ち着いた雰囲気を出している。介護老人福祉施設やグループホーム4事業所などを展開する社会福祉法人が運営している。</p> <b>【看取りの対応】</b> <p>重度化した際は、協力医療機関の医師などと連携して、家族等の希望を再確認しながら利用者の状況に応じた対応をしている。経験豊富な職員が多く、家族と相談しながら利用者が、穏やかな表情で過ごせるよう努めている。最期の時を一人にしないよう家族を呼んで居室で過ごしてもらい、職員も見守って、ここ1年間では2名を看取っている。取り組んだ過程や行動を家族に評価してもらい職員間で共有し、看取り介護の振り返りとしている。</p> <b>【利用者とのコミュニケーションを図る取組み】</b> <p>コロナ禍で買物に出かけられない代わりにネット通販を利用して、職員と利用者が好みの商品を選び、楽しみながら購入している。口腔ケアの介助、保湿クリームの塗布やフットケアを励行している。その際に職員は、会話しながら指先から伝わる体温の変化等から利用者の体調を察知し、健康管理に繋げている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームあすの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に、各利用者の生活作りを考えてカンファレンス時に話し合い、ケアを統一できるようにしている。	法人の基本理念を基に、独自の事業目的と運営方針7項目を事業所内での掲示や入職時、年度替わりに確認し共有している。運営方針である『一人ひとりの生活作り』を事業所独自の理念とし、カンファレンスで確認している。理念を具体化したひと項目「入居者と共に毎日の生活を楽しむ」などを実践に繋げ、「お花見」の行事は、新型コロナ禍で外出できなかった為、中庭の枝垂れ桜の下でのお茶会に変更して楽しんでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今までのように地域と係わる事ができなくなっているが、野菜を持ってきてくださったり、玄関先で声をかけてくださったりとつながりを感じられる事がある。	台村森の台自治会に加入し、例年行われる地域の防災訓練や盆踊りへの参加を予定していたが、新型コロナ感染防止のため中止となっている。同様に盛んであったボランティアとの交流も中断している。近隣の方から手編みの帽子を頂いたり、野菜をおすそ分けしてもらったり、玄関先で外気浴をしている際に挨拶を交わすなどして地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域の方々と係わる事ができなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ホームで開催する事ができず、書面での開催となっている。	今年度の運営推進会議は書面開催で、奇数月に実施している。メンバーは、地域包括支援センターの職員と学識経験者、事業所の職員で「運営推進会議開催報告書」と「活動状況報告書」を送付し、湿度管理や健康管理、職員のストレスケアについてのアドバイスをもらい、カンファレンスで共有している。役員変更のあった自治会の方や民生委員には、参加の意向が確認出来ていない為、報告書は送付していない。家族には活動状況報告書を送付している。	コロナ禍で対面の運営推進会議が開催できない状況や自治会役員の変更に伴い、メンバーの方と疎遠になった今年度ですが、今迄培ってきた地域との強いつながりを今後も継続して保てるよう、自治会に働きかけることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口となり、必要に応じて、連絡を取り合い、協力し合えるようにしている。	緑区高齢・障害課へ運営推進会議の報告書を郵送している。担当職員とは、必要に応じた電話連絡の際に事業所の状況などを伝え、相談などはしやすい関係を保っている。生活保護費受給者4名を受け入れており、緑区と青葉区の生活支援課の担当職員と協力関係を築いている。緑区主催の感染症や食品衛生の研修に職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	新型コロナの影響により、法人全体での研修はおこなえていないが、カンファレンス時などに確認し合い、ケアの内容を決める時には、身体拘束になっていないかなども考慮するようにしている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を整え、3ヵ月に1度開催の「身体的拘束等適正化委員会」や年2回開催の研修を通して、身体的拘束をしないケアの確認をしている。職員のスピーチロックが見受けられた際は、管理者が注意を促しカンファレンスで話し合っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスなどで、日々のケアについて振り返りながら、利用者への対応や態度、言動などが適切か検討するようにしている。	高齢者虐待防止について研修を実施している。言葉や態度による心理的虐待が多数を占める事を学び、虐待が見過ごされることがないように努めている。年度末迄に行政のチェック表を用いて虐待行為について確認し、集計結果を役立てる意向である。ニュースで虐待が取り上げられた際には、カンファレンスで再確認している。虐待防止のための指針は法人内で検討しており、運営規程への掲載を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が窓口となり、必要に応じて、関係機関と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がおこなっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙、電話時などでうかがった話の中から、優先順位を考慮し、運営に反映できるようにしている。	利用者の様子は「里だより」や「活動状況報告」を郵送し家族に伝えている。家族の要望・意見は、家族の面会時や2ヵ月に1度開催の家族会で来訪した際の会話から把握していた。新型コロナウイルス感染予防のために来所を中断している間は、電話で本人の状況を細かく報告し、その際に、意見等を聞いている。「感染予防の徹底を願いたい」という家族の要望が大多数で、職員共々感染対策の強化に努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や個別などで、意見を聴いてもらえる機会があり、内容に合わせて現場へ反映されている。	管理者は、日々の申し送りや月1回開催するカンファレンスで職員の意見や提案を聞いている。年2回実施している個人面談でも希望や意見を聞いている。利用者の日常の様子から、安全確保のための2人介助の必要性の提案や物品購入などの職員の意見を検討し、反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に、状況に応じて話ができる機会が設けられ、職員が向上心をもって働けるように改善などをはかっている。	管理者は、日常業務の中で職員個々の努力や実績を把握している。勤務状況は出勤簿で管理している。正社員は人事評価制度がある。勤続年数3年以上の介護職員が多数在籍しており、非常勤職員は年数の他、取得資格で給与が変わる為、管理者は勤続年数3年を過ぎた職員には、介護福祉士の資格取得を薦め研修の案内をしている。介護福祉士などの資格取得のための研修受講料や交通費の支援が得られる。希望休の日数に制限をせず、産休や育休の他、職員の事情に合わせて時短勤務も可能にして、長く勤められる環境を作っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響により、ホーム外への研修を受けに行ける状況ではなかったが、資格取得の為の研修などへは参加していた。	事業所独自の「研修計画」がある。新型コロナ禍で法人内研修は中断し、外部研修は必要最低限に絞り職員の育成に取り組んでいる。研修終了後に「研修レポート」を提出し、カンファレンスで研修内容を共有している。職員の得意な事を発揮できる場の提供を目的に倶楽部（家庭科・美化園芸・生き活き）を作っている。日勤者3人の他に倶楽部担当が活動日として勤務し活動を通して利用者と接している。利用者との信頼を築く良い機会となり、ケアに反映できることでモチベーションのアップに繋がっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの影響により、外部の会議などへの参加はひかえていたが、メールや電話などでは、情報交換をおこなうようにしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何に不安を感じているのか、まずは話を聴くように努め、不安を取り除けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が要望を聴いている。職員は家族の方が面会へいらした時や電話連絡があった時に、日ごろの様子を伝えるなどして、話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口となり、要望を聴き、その中から何が一番大切な事なのかを、カンファレンスなどで決めて、より良い対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる事はできる限り行ってもらえるように支援しているが、ふとした時に、気付かされる事や見習う事がある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染拡大に伴い、ご家族と一緒に係れる事が少なかったが、いろいろな対策を行う時には、ご意見をいただいたりして、少しでもホームに係ってもらえるようにしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出ができなかった為、あまり支援ができなかった。	新型コロナ禍においては、状況を判断しながら交流の中断や再開をして関係維持を支援している。電話や手紙のやり取り支援を通じて、馴染みの人との関係を保っている。利用開始前からの生活習慣の継続で、新聞を取る方や雑誌を定期的に購入する方がいる。2週間に1度来訪する移動パン屋は、利用者の新たな馴染みの関係にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格、言動の強弱を考え、無理をしたり、我慢をしたりしないで過ごせるよう一人一人の支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が中心となり関わっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	感染拡大に伴い、例年のような対応ができない事もあったが、周囲に合わせて無理をしたり、我慢をしている方もいると思うので、日々の生活の様子や会話から、希望をくみ取れるように努めている。	日々の関わりをもつ中で「楽しく過ごしたい」、「ずっとここにいたい」など利用者の希望を把握して介護計画に反映している。意向の把握が困難な場合は、二者択一の選択肢を提示したり、利用者の表情の変化などを見逃さぬようにして推し測っている。把握した利用者の言葉を個人日誌の特記エピソード欄に記述し職員間で共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの話やご家族、ケアマネさんなどいろいろな角度からの情報をもとに、今までの生活を理解できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調や状態、言動などを考慮し、一日の過ごし方を検討するようにしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや連絡ノート、日誌のエピソード欄などで、感じた事や気づいた事を皆で話し合い、それをもとに管理者が介護計画を作成している。	月1度開催のカンファレンスでモニタリングを行い、利用者の状況について意見交換している。介護計画は原則3ヵ月に1度見直し、状況に変化があればその都度見直している。家族の意向や医師などの意見も反映し、介護計画を作成している。介護計画を業務日誌や個人記録に挿み、ケア実施の有無などを捉えられるように記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の記録が残るようにすると共に、早く他の職員へも周知してもらいたい時には、日誌の特記欄や連絡ノートへも記入して、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんの体調や状態を考慮し、その日のメンバーなどで判断し過ごし方を変更したりしている。判断に困った時には、管理者連絡し決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染拡大に伴い、なかなか地域の方々と係わる事はできないが、地域とのつながりは持ち続け、相互的に支え合える関係を築けるように心掛けている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と相談をし、必要に応じて受診をおこなっている。	利用者全員が24時間オンコール対応の協力医（内科医）の往診を月1回受けている。歯科医は、月に1度は全員が受診している他、毎週訪問して希望者の治療や口腔ケアを行っている。往診医以外の協力医療機関や専門医への受診は、職員が同行している。家族に状況を確認してもらった際は、同席を依頼している。診察の結果は「受診報告書」に記載して内容を共有している。また、医師、歯科医師の指導のもと、口腔ケア、保湿ケアに特に力を入れており、利用者の健康増進に効果を上げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問日に、入居者さんの気になる事や変化などを報告し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々に情報を明記したファイルを用意してある為、情報を伝えやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族間でどのような終末をむかえてもらいたいのかなど、話し合いの場を設けてもらえるように説明をしている。必要と思われる時期に、ご本人の意向やご家族、主治医と話し合いをおこなっている。	利用開始時に「入居者が重度化した場合の対応についての指針」、「病状変化にともなう確認書」で事業所の方針などを家族等に説明し、「看取り介護についての同意書」、「急変時における対応についての同意書」を家族等から得ている。重度化した時は、協力医療機関の医師などと連携して、家族等の希望を再確認しながら利用者の状況に応じた対応をしている。ここ1年間で2名の看取りを経験している。経験豊富な職員が多数いる事や毎年のように看取り経験している事もあり、近年は事前の研修は行っていない。感謝の言葉や「居室で看取れて良かった」等の家族からのフィードバックを看取り後の振り返りとして、職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族間でどのような終末をむかえてもらいたいのかなど、話し合いの場を設けてもらえるように説明をしている。必要と思われる時期に、ご本人の意向やご家族、主治医と話し合いをおこなっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あすの里の立地上、水害はほぼおこらないが、色々な地域で地震が頻発している事や空気の乾燥にともない、火災のリスクもあがるので、状況に応じたの対応方法なども検討するようにしている。	3月に夜間の火災も想定した自主訓練を行い、7月は利用者も同席し、机上で火災や地震のシュミレーションを実施している。災害マップで水害のリスクが低い立地であることを把握している。飲料水、魚の缶詰、アルファ米、パン等を準備し「非常食一覧」を作成し管理している。災害時にコンスタントに食事を提供できるよう3日間の「非常食献立表」を作成し災害に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方などを状況に合わせて変え、静かに過ごしたい方、冗談やにぎやかな事が好きな方、それぞれに対応を変えるようにしている。	「身体拘束について」や「虐待について」の研究で高齢者の尊厳の保持や言葉による虐待についても学んでいる。呼称は「さん」付を基本とし、メモなど人目につきやすい物は、名前をイニシャルに変えている。利用者と職員との距離が近くなり過ぎて「ちゃん」付けで呼ぶなどの行為が見られた際には管理者が注意をしている。パソコンは、パスワードで管理し、個人情報を含む書類は金庫に納め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2択にしたり、実際に物を用意したりと、自己決定しやすいように、一人一人の状態に合わせて声の方などを変えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添えるように支援をおこなっているも、健康、体調、安全、衛生などを考慮し、必ずしも入居者さんの思いだけを支援できない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や安心する色などを選んで、タオルや衣類、寝具などを購入するようにしている。お化粧品や整髪など、適宜好みに合わせておこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの状態に合わせて、できるお手伝いをさせていただくと共に、少しでも好みの物を食べられるように準備している。	専門業者から配送される献立付の食材を利用し、職員が調理をしている。毎日のお茶会後に、利用者が食器洗いを手伝っている。「野菜が好き」、「餡が好き」など利用者の嗜好を把握し、野菜を追加したり、おやつに提供している。誕生日会や行事の際にも、利用者に好みのものを聞いて提供している。2カ月に1回行っていた外食の行事に出かけられない代わりに、お好み焼き作りをしたり、寿司や弁当などの出前を注文して、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、体調をみて、食事量を調整し、高カロリーな捕食を用意している。水分摂取は、お茶だけでなくスポーツドリンク、ココア、牛乳など、好みに合わせて準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言のもと、個々に応じた口腔ケア用品を使用し、毎食後に口腔ケアをおこない、職員が仕上げをおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄簿をもとに、排泄リズムをとらえ、状況に合わせて声をかけたりして、トイレで排泄ができるように支援している。	職員は、利用者ごとの排泄パターンを把握して、定時での誘導や、利用者の様子から推察して声かけを行い、トイレでの排泄を促している。夜間は、おむつ使用に移行する方もいる。排泄の促しにより、パッド等を使用している方の失禁状態が減少し、陰部感染を改善している。職員は、一人ひとりの状態に応じた排泄の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、食事内容や飲み物、運動など、一人一人に合わせて対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者さんの状態に合わせて、入浴の時間帯や声のかけかたなどを工夫し、気持ちよく入浴していただけるようにしている。	利用者は、概ね2日から3日に1回の頻度で入浴している。朝風呂を希望する方や催しがある時は午前に入浴するなど、職員は決められた時間の中で、タイミングを見計らいながら利用者に入浴を促している。入浴を好まない方には「顔を剃るので」と声をかけ「ついでにお風呂に入りませんか」などと誘っている。入浴剤の使用や柚子湯・菖蒲湯などで季節を楽しみながら入浴している。ヒートショック対策として浴室と脱衣所に床暖房を施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や体力に合わせて、臥床する時間をもうけている。夜間はゆっくり休んでいただけるように、日中の活動量を増やすように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は全員が確認できるところにファイルしている。変更箇所にはマークを記入している。カンファレンス時には、服薬内容を確認し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に喜びを感じるのか、日々探り、その中から今対応できる事は何かと、考えながら、できる限り好きな事は毎日おこなえるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年度もおこなえていない。	感染予防のため、ガラス越しの日光浴やベランダなど事業所の敷地内で、外気浴を日常的に行っている。活発だった外出が行えない代わりに、花を飾ってお花見カフェを行ったり、お好み焼きづくりを企画する等、室内での催しを増やすなど工夫して気分転換している。買物に出られない代わりに、ネット通販を利用して買物を楽しんでいる。新型コロナ蔓延防止措置が解除された期間は、感染対策を施し時間や面会人数を決め、玄関先で家族等と面会している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や後見人の方などと相談しながら、ご本人の状態に合わせて、お金を持っている事で安心される方には所持してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染拡大に伴い、面会制限がある為、電話がかかってきた時にはハンズフリーなどにして会話を楽しんいただいたり、状況をご報告できるように手紙をだしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木をふんだんに使用したり、外からの光がはいりやすくしていたり、安心した室内になっている。季節に合わせて飾りつけをする事で、季節感を感じてもらえるようにしている。	窓の開閉を行い換気に配慮し、空調設備で温度管理をしている。天井が高く木材を多く採り入れた室内は、利用者がくつろげる空間となっている。壁に季節行事や誕生会の様子を捉えた写真を飾り、クリスマスツリーや雛人形などを季節に合わせて飾っている。正月には、鏡餅を飾り、利用者は着物を着て過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチやイスがあり、ウッドデッキにも内側にベンチがある為、庭の植木や花、野菜など季節によって、楽しめるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など、使い慣れた物を持ち込まれる方や入居された後に、好みに合わせてそろえる方もいる。	事業所が備えた空調設備、照明、クローゼット、押し入れがある。『グループホームのご案内』に「生活に必要なもの、本人が使用していた物、大切にしている物はできる限りお持ちください」と記載し、使い慣れた物を持ち込むことを推奨している。利用者はベッド、テレビ、鏡台、仏壇、オイルヒーター、ぬいぐるみ、カレンダー等、思いおもいの品を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーな為、徒歩でも車いすでも生活しやすくなっている。居室は、畳を使用している事で転倒された時のリスクが軽減されている。		



